

野洲市大篠原地域環境保全対策委員会 平成 29 年度第 1 回会議 会議結果

1. 開催日時 平成 29 年 7 月 21 日 (金) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分
2. 開催場所 野洲クリーンセンター 2 階 研修室
3. 出席委員 市川委員、岸本委員、山田委員、南委員、網野委員、飯田委員 以上 6 名
欠席委員なし
4. オブザーバー 滋賀県南部環境事務所 海東所長
6. 事務局 遠藤環境経済部長、吉川環境経済部次長、西村環境課長、
中井野洲クリーンセンター整備室長、同室山本補佐、南井専門員、高田専門員
以上 7 名
新野洲クリーンセンター建設工事請負業者 3 名
7. 傍聴者 なし
8. 会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員自己紹介
4. 委員長、副委員長の選任
5. 議事
ばいじん処理物の水銀の状況について
生活環境影響調査事後調査の中間報告について
旧クリーンセンター解体工事の進捗について
平成 29 年度周辺河川等環境モニタリング調査計画について
6. その他
7. 閉会

9. 会議結果

議事 ばいじん処理物の水銀の状況について

意見、質疑等 (・各委員 市事務局)

- ・ばいじん処理物の溶出値が 0.004mg/L を上回った場合に、混練装置に異常がある可能性があるということか。溶出値を測定しないと判断できないという意味か。
水銀の溶出値で 0.004mg/L を超えた場合には停止し、混練機内部を点検する。
- ・0.004mg/L を超えた場合は停止だが、混練装置の異常ではなく、原灰に異常があるということであれば、装置を点検するよりも原灰をどうするかではないか。
水銀含有量と水銀溶出値の関係図を見ると、原灰の水銀含有量に関係なく溶出値 0.004mg/L を下回るという結果が出ている。原灰の水銀含有量に関係なく、0.004mg/L を超えた場合は停止するという考え方である。
- ・0.004mg/L ぎりぎりまで停止し点検したが、装置に異常がなければ、引き続き作業をするということか。原灰が原因であったらそれはわかるが、原因がはっきりしない場合は心配だ。
装置の異常を先ず確認することが原則である。特にキレート量は日々確認をし、原灰も毎日測定しており、数値が上昇してくると廃棄物に異常があると考えなければならない。
- ・イメージとしては安定運転しているので、安心しているが、ただ全体的には原灰の水銀含有量の数値が高いのではないかという感じがする。
水銀の含有量は全国的に見て高めであることは認識している。ただ、野洲市民のごみに他地域より水銀が多く入っているのかといえばそうではない。

議事 生活環境影響調査事後調査の中間報告について 特に質疑なし

議事 旧クリーンセンター解体工事の進捗について

- ・法面の土壌を置き換える具体的な工法は。
10cm の漉き取りを人力で実施する。水路は鉄板養生を行い、急な降雨による流失について

は、作業を中止し、シート被膜等により対策を講じる。

- ・ 10 c m 漉き取った後に土壌ダイオキシンが残っていないか心配である。その点はどうか。
10 c m 漉き取った後に、土壌ダイオキシンの値を確認する検査を実施する。その結果残っている場合は再度漉き取りを行う。基本 30 p g 以下にする仕様である。

議事 平成 29 年度大篠原地域環境モニタリング調査計画について

- ・ 施設内水路の底質測定で、解体工事で法面の土壌を漉き取る時に、豪雨で施設内水路に土壌が流れた場合、事前に測定しておかないと、後で堆積した土砂が対象になってしまうのではないかと。
土壌の漉き取りは 10 月以降であり、環境モニタリング調査はその前の 9 月に実施し影響のないように採取する。
- ・ 漉き取り前は、水路にカバーが全面に覆っているので採取出来ないのではないかと。
採取は、カバーの手前の旧管理事務所の横で、水質と底質を採取する予定である。
- ・ 漉き取り時、天候によっては、若干土壌が流れてくる可能性はある。漉き取り後、新しい土壌を入れる前に検査をし、実際に土壌を漉き取った後に流れたかどうかの確認が必要ではないかと。
漉き取り時に大雨が降って、沈砂池で異常な高い値になることを心配している。
そのようなことが起こらないように工法と措置を考える。特にモニタリングについては早く分析して確認ができるようにし、漉き取り時の対応は工事業者に指示していく。

その他

意見、質疑等

- ・ 水銀を含むものをごみピットに入れる前に目視で確認しているのか。
燃えないごみは、破砕機にかける前に手選別し、水銀関係のもの、爆発の危険性のあるものは、除去している。燃えるごみは、ごみピットにそのまま投入するので、そこから抜き出すことはしていない。
- ・ 水俣条約が 8 月に発効する。これに合わせて水銀回収プランに関する行事を考えてはどうか。
市民に水俣条約自体も周知できるし、相乗効果が見込めるのではないかと。
- ・ 新しいクリーンセンターができて、環境フェスタを開催し、色々なイベントもあったが、市民が知らなければいけない肝心な広報とか、宣伝の成果は出たのか。
環境フェスタ参加者は約 1,000 人あり、グラウンドゴルフ場の整備もあり、市民に浸透してきていると感じる。広報等も活用し、水俣条約も含めて周知に努めたい。
- ・ 市民に広くどう知ってもらうかを模索しながら、良い方向に進めていただきたい。ごみに関する問題は、市だけではなく、ボランティア等をとおして、市民が自主的にごみのあり方を考えられるような方向性に向かって啓発活動を展開していくのがよいと思う。
是非そのような方向にもっていけるように努力していく。
- ・ 水銀溶出値のデータを見る限り、まだリスクはあると思うので水銀使用廃製品の回収等も継続して実施をお願いしたい。

以上